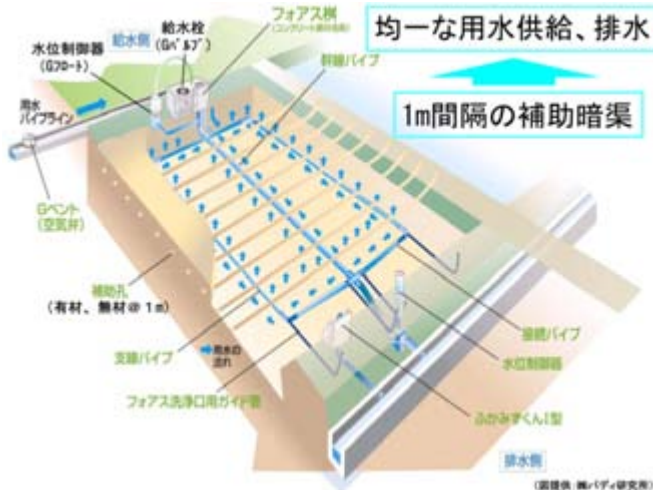


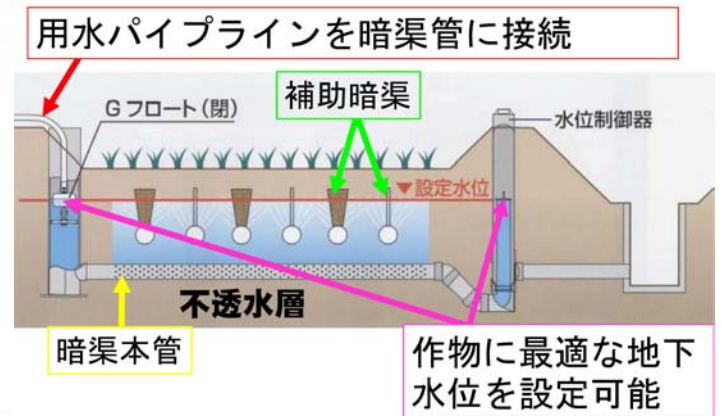
地下水位制御システム(フォアス)を整備したほ場における大麦と大豆の単収向上の取組

中能登農林総合事務所農業振興部

フォアスの概略図



フォアスの断面図



中能登地域では、水田の転作作物として大麦と大豆の栽培を行ってきましたが、地下水位が高く、排水不良のため、湿害を受け易く、大豆については夏場の乾燥も影響し、平成22年産の収量は大麦で175kg/10a（目標300kg/10a）、大豆で26kg/10a（目標80kg/10a）と低い状況にありました。

このため、本年度、当事務所では、中能登町東馬場地区において、地下水位を自在に制御できるシステム（以下フォアス）を導入したほ場で、単収向上を目的とした栽培実証試験を行いました。

栽培実証試験では、大麦と大豆のほ場においてフォアスの排水機能による地下水位の低下を図り、大豆においては水分要求量の多い開花期から子実肥大期（7月中旬～8月中旬）に3回の地下かんがいを実施しました。

この結果、大麦の収量は365kg/10a（対照区で215kg/10a）、大豆で231kg/10a（対照区で121kg/10a）と向上しました。これはフォアスにより地下水位が制御できた結果だと考えています。

今後は、本年度の栽培実証試験の結果を踏まえ、農家等に対して排水対策の徹底を働きかけるとともに、土地改良部と連携しながらフォアスの導入を推進し、大麦と大豆の単収向上のため栽培技術の確立と農業経営の安定に努めていきたいと思っております。

問い合わせ先：中能登農林総合事務所農業振興部（0767-52-5522）